



# ニュースレター 2015.07.発行 NO.13

一般社団法人エビデンスに基づく統合医療研究会(eBIM 研究会)

理事長 伊藤壽記 事務局長 梅名義昭

大阪大学大学院医学系研究科 統合医療学寄附講座内

〒565-0871 吹田市山田丘2番2号 TEL 06-6879-3498

URL:<http://www.ebim.or.jp/>

運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社 (担当：宇田川、中村)

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7 京阪神不動産淀屋橋ビル2階

TEL：06-6221-5933 FAX：06-6221-5938 Email: [ebim@convention.co.jp](mailto:ebim@convention.co.jp)

## 第4回エビデンスに基づく統合医療研究会 開催のお知らせ

日時：2015年8月1・2日(土・日)

会場：リーガロイヤルNCB 中之島センタービル(大阪市北区中之島6丁目2-27)

テーマ：「癒しと統合医療」

### 【ご挨拶 伊藤壽記】

第4回エビデンスに基づく統合医療研究会を上記の要領で開催します。

日本の医療が変わろうとしています。対象となる疾患のほとんどが、がんを始めとする生活習慣病であり、慢性の経過をたどる複雑系であり、これらに対して現行の医療体系では限界があります。国民医療費は年々右肩上がりの高騰を続け、このままでは国民皆保険制度の破綻が危惧されます。こうした中で、全人的な視点での統合医療が注目されています。(超)高齢者医療(メタボ、ロコモ、認知など)や大規模災害(天災、人災)後の後遺障害、慢性疼痛など、これまでの医療の枠では対処できない領域があり、まさに統合医療に求められるところであり、まず取り組むべき課題であると考えます。さらには、欧米の統合医療的アプローチをそのまま継承するのではなく、臨床研究を通じてエビデンスを構築し、我が国の風土に合った日本型の統合医療を開発していくことが求められます。

今回の研究会のテーマを、『癒しと統合医療』としました。統合医療の各種ツールが五感を介して、「癒し(healing)」へと導くことが知られています。今回、「癒し」という言葉をキーワードにして、特別講演、教育講演、シンポジウム、話題提供、

ワールドカフェ、ランチョンセミナー、ポスターセッションなど、多彩な内容を提供したいと思います。また、ハイレゾ音源下でアロマセラピー、鍼灸を体験する「癒しの空間」の試みも初めて行います。

**第4回 エビデンスに基づく統合医療研究会 (eBIM研究会)**  
evidence-based Integrative Medicine

平成27年 8月1日(土)・2日(日)  
リーガロイヤルNCB (中之島センタービル2階)  
〒565-0005 大阪市北区中之島6-2-27 TEL:06-6443-2231

**「癒しと統合医療」**

- 特別講演1『血中遺伝子発現解析による新たな指標の開発』  
水島 洋(国立保健医療科学院)
- 特別講演2『癒し・医療・幸せとともに生きる場の再生へ』  
上田 紀行(東京工業大学リベラルアーツセンター)
- 教育講演1『ふたごが拓く予防医学の未来』  
岩谷 良則(大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター)
- 教育講演2『今日から使える医療統計:基本コンセプトとツール紹介』  
新谷 歩(大阪大学大学院医学系研究科臨床統計疫学寄附講座)
- シンポジウム1『慢性疼痛(慢性痛)をみる』
- シンポジウム2『ふれるという意味』
- シンポジウム3『食品の機能性表示制度がはじまって』
- 話題提供 ○ワークショップ ○ワールドカフェ

当番世話人 伊藤壽記(大阪大学統合医療学寄附講座 特任教授/千里金剛大学看護学部 教授)

(参加登録料)  
(事前登録)会員・非会員 5,000円/学生 1,000円  
(当日登録)会員 5,000円/非会員 6,000円/学生 1,000円

(問い合わせ先)  
日本コンベンションサービス株式会社  
TEL 06-6221-5933 FAX: 06-6221-5938  
E-mail [ebim@convention.co.jp](mailto:ebim@convention.co.jp)

●主催 一般社団法人 エビデンスに基づく統合医療研究会(eBIM研究会)  
大阪大学大学院医学系研究科 統合医療学寄附講座内 〒565-0871 吹田市山田丘2-2 TEL:06-6879-3498  
●共催 大阪大学大学院医学系研究科 統合医療学寄附講座  
●後援 一般社団法人日本統合医療学会 公益社団法人全日本鍼灸学会 一般社団法人日本カイロプラクティック学会

## 【プログラム】(敬称略)

### ■8月1日(土)

【開会挨拶】伊藤壽記 (eBIM 研究会理事長)

#### 【特別講演1】

『血中遺伝子発現解析による新たな指標の開発』

水島 洋 (国立保健医療科学院)

#### 【教育講演1】

『ふたごが拓く予防医学の未来』

岩谷良則 (大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター)

#### 【シンポジウム1】

『慢性疼痛(慢性痛)をみる』

「慢性疼痛：効く治療を効かせる治療」

水野泰行 (関西医科大学心療内科学講座)

「慢性痛における癒しを妨げるメカニズム：

過活動のスクリーンセイバー仮説」

細井昌子 (九州大学病院心療内科)

「慢性疼痛における統合医療の役割：

特に鍼灸治療の効果と役割について」

伊藤和憲 (明治国際医療大学)

#### 【話題提供1】

「こどものホスピスが地域に必要な理由」

高場秀樹 ((一社)こどものホスピスプロジェクト)

「身体的ストレスに対する鍼治療の作用とメカニズム：極限環境における鍼灸治療の応用と可能性」

今井賢治 (帝京平成大学ヒューマンケア学部鍼灸学科)

#### 【シンポジウム2】

『ふれるという意味』

基調講演：「て・あーての心とわざ」

川嶋みどり (健和会臨床看護学研究所)

「触れることの癒し効果について」

山口 創 (桜美林大学リベラルアーツ学群)

「触れるケア「タクティールタッチ®」

山本裕子 (千里金蘭大学看護学部)

「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード」

本田美和子 (東京医療センター総合内科)

#### 【意見交換懇親会】

### ■8月2日(日)

#### 【話題提供2】

「統合医療先進国キューバの現況」

小野直哉 (未来工学研究所)

「漢方と鍼灸の統合医療」

中田英之 (練馬総合病院漢方医学センター)

#### 【特別講演2】

『癒し・医療・幸せ — ともに生きる場の再生へ』

上田紀行 (東京工業大学リベラルアーツセンター)

#### 【ポスターセッション】

【ランチョンセミナー】 協賛：(株)アミノアップ化学

#### 【会員総会】

#### 【教育講演2】

『今日から使える医療統計：

基本コンセプトとツール紹介』

新谷 歩 (大阪大学大学院医学系研究科臨床統計疫学寄附講座)

#### 【話題提供3】

「ひびきと自然治癒力～オルゴール療法～」

佐伯吉捷 ((一財)国際ひびき生命科学センター)

#### 【ワークショップ】

『癒しとしてのヨーガ療法』

【ワールドカフェ】ファシリテータ：林 紀行

#### 【シンポジウム3】

『食品の機能性表示制度がはじまって』

基調講演：

「機能性表示食品をどう統合医療に活用するか？」

森下竜一 (大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学)

「地域産業と機能性表示食品の関わり」

栗下昭弘 (特定非営利活動法人 新食品・機能性食品と農林畜水産業を語る会)

「機能性を持つ農林水産物の研究開発状況について」

土居下充洋 (農林水産省 農林水産技術会議事務局研究推進課)

「機能性表示食品の科学的根拠と国際比較」

清水俊雄 (名古屋文理大学)

【閉会の辞】山下 仁 (森ノ宮医療大学)

#### ■癒しの空間

アロマセラピー、鍼灸、ハイレゾ音源の体験会

## これからの医療とまちづくりシンポジウムひろく

### MOA インターナショナル・MOA 健康科学センター



4月26日(日)、国立京都国際会館において、国際シンポジウム「これからの医療とまちづくり～結び合う新しい絆 地域コミュニティの役割～」が、一般社団法人 MOA インターナショナル・一般財団法人 MOA 健康科学センターの共催で開催された。統合医療の世界的権威 アンドルー・ワイル先生、イギリスの医療改革に取り組んだ英国国営健康保険サービス連盟議長 マイケル・ディクソン先生、統合医療学会 仁田新一 理事長、伊藤壽記 業務執行理事(当会理事長)、渥美和彦 名誉理事長が演者として参加した。

同財団の理事長 鈴木清志先生は、『一般社団法人 MOA インターナショナル (MOA) の理念の提唱者である岡田茂吉先生の健康観をもとに人々の真の健康と幸福をもたらす医学を創成するため活動しています。MOA は、統合医療の医療モデルとして、全国の統合医療クリニック (療院) を中心とする全人的ケアを行い、地域のボランティア組織 (MOA 健康生活ネットワーク) は、統合医療の社会モデルとして、療院と連携して、生活習慣の改善、健康増進セミナー、芸術活動や農・食などで交流を深めています。こうした活動の根底には、岡田先生の提唱された健康観、人生観が流れています。MOA 活動はスピリチュアルな共助を構築する動きであり、今後の健康・医療システムの具体的なモデルだと考えます。「自然治癒力を大切にする医療」「生活習慣の改善をサポートする医療」「薬に頼らない医療」「治療医学よりも予防医学」「体・心・魂 (スピリチュアル) の健康を増進する医療」は統合医療の根底に流れる概念であり、療院と健康生活ネットワークは、生活習慣の改善を支える貴重な医療資源です』と述べている。(同財団 HP から抜粋)

写真左上からアンドルー・ワイル先生、左中：討議する伊藤先生、渥美先生、マイケル・ディクソン先生、アンドルー・ワイル先生、司会は MOA 健康科学センターの鈴木清志先生、左下は会場風景

#### ■第8回 統合医療セミナー ひらく

「ハイレゾリューション音源」による

#### 新たな「癒しの空間の創生」

3月12日(木)、大阪大学医学部附属病院会議室において、大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座は、第8回統合医療セミナーとして「ハイレゾリューション音源」による新たな「癒しの空間の創生」の体験・体感と講演会を開催した。

講師は、榎本誠也 (株)JVC ケンウッドビクターエンターテインメント エグゼクティブ・プロデューサー、梅田智広 奈良女子大学特任准教授、医学博士。

ハイレゾ音源は CD 密度の 500 倍以上の高音質・広帯域で、その山や川、海の自然音源は、心身の安定、集中、リラックスに効果があると言われ大変注目されている。

第37回 日本アーユルヴェーダ学会 研究総会

第13回 日本ヨーガ療法学会 研究総会

第 2回 日本健康促進医学会学術総会が共同開催



上から伊藤先生、ナガラートナ先生、木村先生、  
主な演者、市民公開講座 林先生

5月8日(金)～10日(日)、神戸ポートピアホテルにおいて、次の3つの学会が共同開催された。共同テーマは『生命の円卓～見直される伝統医学の本質的効果～』。多数の会員、一般市民が活発な意見交換、交流を行った。

◎ 第37回 日本アーユルヴェーダ学会研究総会  
「～長生きは五感の健康から～」

シャーラーキャ・タントラム特集:理論と実習」

◎ 第13回 日本ヨーガ療法学会研究総会  
「がんと向き合う～ヨーガ療法の可能性」

◎ 第2回 日本健康促進医学会学術総会  
「“未病治療”という新しい考え方」

オープニングセレモニーでは、伊藤壽記大会長が、「がんの統合医療」をテーマに基調講演した。

インドのラグナム・ナガラートナ先生(ヨーガ)が「全人的健康への統合医療-研究による根拠/Integrative Medicine for Holistic Health-research Evidences」をテーマに講演した。司会は木村慧心先生(日本ヨーガ療法学会理事長)。そのほか、岡孝和先生「ストレス性疾患とヨーガ」、ウダヤ・シャンカラ先生(アーユルヴェーダ)「慢性鼻炎、慢性副鼻腔炎のアーユルヴェーダ治療と実習」、ロレンツォ・コーエン先生(ヨーガ)「がんケアへの統合的ヨーガ/Integrating Yoga into Cancer Care」、大塚邦明先生(アーユルヴェーダ)「いのちを守る からだの時計」、柏木哲夫先生「末期がん患者のQOL」、蒲原聖可先生(健康促進)「肥満・メタボリック症候群に対する統合医療的アプローチ～食事療法・フォーミュラ食・遺伝子検査・機能性食品を組み合わせた非対面式ダイエット支援の有用性」ほか、多彩な講演が行われた。

市民公開講座では、林紀行先生(大阪大学大学院統合医療学寄附講座助教)「外傷後後遺障害に対する統合医療的アプローチ」、今村幸子先生((社)復興支援ヨーガの風代表)「東日本大震災のヨーガ療法支援と原発事故被災地福島におけるヨーガ療法活動」、木村慧心先生「ヨーガ療法とストレス・マネジメント」、昇幹夫先生(日本笑い学会副会長(医師))「あなたの笑顔、なにより薬!」の講演があった。

(写真協力:一般社団法人 日本ヨーガ療法学会)